

〈資料紹介〉二之丸庭園余芳出土の漆喰片

花木 ゆき乃

キーワード

名古屋城二之丸庭園 漆喰 たたき 余芳 手水

はじめに

二之丸庭園は、特別史跡名古屋城跡の二之丸北側に位置する。

当初の二之丸庭園は中国風の庭だったようで『中御座之間北御庭惣絵』（名古屋市蓬左文庫所蔵）にその様相が描かれている。その後、10代藩主斉朝によって大きく改変され、回遊式庭園となった。その様子は『御城御庭絵図』（名古屋市蓬左文庫所蔵）に描かれている。明治以降は軍事施設や大学施設として利用された。

二之丸庭園では平成25年（2013）から保存整備事業を実施しており、発掘調査も継続的に行っている。平成27年（2015）の発掘調査では余芳の手水跡が確認された。本稿では発掘調査で出土した余芳の手水跡の一部である漆喰片について報告する。

1. 余芳の概要

余芳は庭園内に複数設けられた茶亭の一つであり、文政6～10年（1823～1827）頃、10代藩主斉朝による庭園改変に伴い設置されたと考えられている。北池の東側に位置したことが『御城御庭絵図』等の絵図から確認できる。『御城御庭絵図』では、建物は四畳半で建物南側には濡れ縁があり、軒先手水が配置されている。建物の西側に飛石、建物の東側に築山と石組が描かれていることから、東側は視界を遮断し、西側に視線を向ける空間構成となっていることが読みとれる（口絵13）。

ほぼ真南から14代藩主慶勝が余芳を撮影した古写真（徳川林政史研究所所蔵）には、建物南側に手水鉢と灯籠が配置され、建物西側には

沓脱石が設置されている様子が収められている。

明治になると庭園内の建物は順次撤去されていった。余芳は同じく庭園内の茶亭の一つであった風信と同様に民間に売却され、移築や増改築がなされた。昭和48年（1973）には名古屋市の有形文化財に指定された。平成23年（2011）に所有者から名古屋市へ寄附され、市が名古屋城内にて解体部材を保管している。

二之丸庭園整備事業の一部として移築再建を行うための調査等を経て、現在は原位置（図1）への移築再建工事中である。

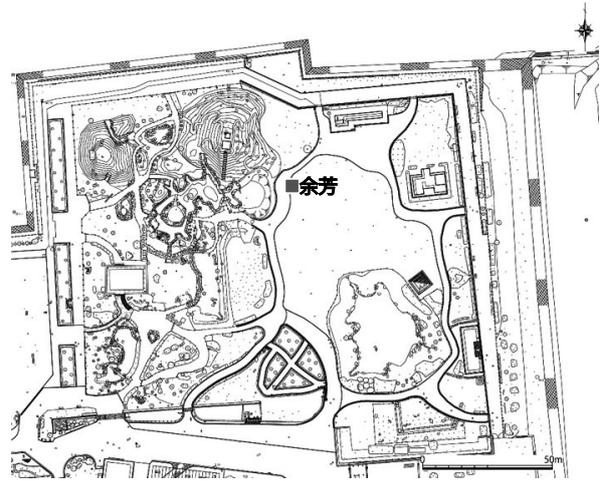


図1 余芳移築再建位置

2. 余芳発掘調査結果

二之丸庭園の基本的な層序は、表土—現代層—近代層—近世層である。明治期になると二之丸は陸軍省所管となり、陸軍の施設が建てられた。施設の基礎は、近世の盛土層とほぼ変わらないレベルもしくは近世の盛土層を削平している。終戦後は陸軍の施設の多くが除去されたが、一部は大学等の校舎や学生寮として利用された。その後、公園整備に伴う造成が行われ、昭和期の発掘調査を経て一部の遺構は整備され、二之丸庭園は現在の姿となった。

余芳周辺にはレンガ造りの陸軍兵舎が建設された。近現代層は明治期以降に兵舎跡の基礎や攪乱坑を埋めた盛土で、その下層に近世の盛土層が一部残っていた。

調査区のほぼ全域で陸軍期の兵舎跡を検出したが、兵舎跡の石敷き廊下の下から、たたきと石を用いて鉢状に造られている遺構を検出した（口絵 14、写真 1）。東西約 1,150 mm、南北約 850 mm が残存する。遺構の北側では近代以降の鉄管が検出され、南側の一部は兵舎跡によって破壊されているが、概ね楕円形であったと思われる。たたきで鉢状に構築され、北側と西側に石が配置されている。内面は緩やかに内湾している（口絵 15）。内面全体に赤いたたきを厚さ 4～8 mm ほど塗り重ねている。鉢状のたたきの底面には直径約 60 mm の排水用の穴が穿たれている。石を据えてから石に沿わせてたたきを施工したと考えられる。石質は、北池の護岸石に用いられている石に類似する。

遺構の出土位置や石組の様子、現存する北池との位置関係を『御城御庭絵図』と比較した結果、検出した遺構は余芳の手水跡であると判断した。鉢状のたたきの南側に手水鉢が置かれていたと推定されるが、手水鉢とたたきの一部は兵舎建設の際に除去されたと考えられる。

手水跡の北側では長さ約 400 mm、幅約 300 mm のほぼ正方形の石を検出した。発掘調査報告書⁽¹⁾ではこの石の性格については触れられていないが、余芳移築再建の検討を進める中で、手水跡との位置関係や標高、石の形状から余芳の礎石である蓋然性が高いと判断した。

3. 余芳出土の漆喰片について

手水跡の周辺で大小合わせて 12 点ほどの漆喰片が出土した。漆喰片は材質、出土位置から手水跡の一部と考えられる。小さいものは 10 mm ほどで大半が 100 mm 程度の小片である。

本稿で報告する漆喰片⁽²⁾は、出土した漆喰片のうち最も残存状況がよく、余芳移築再建における手水跡の復元根拠資料の一つとして、その形状や製作技法等の検討に用いたものである。

破片は遺構とは接合しない。漆喰片の出土位置や原位置を保つ石の配置から、漆喰片は手水跡の東側の一部であったと考えられる（写真 2、丸印部分が漆喰片）。

白漆喰で全体のベースを作り、内面と上端部、外面の上部を赤漆喰で上塗りしている（口絵⁽³⁾ 16・17、図 3）。外面の赤漆喰と白漆喰の境目あたりから内側に屈曲している。赤漆喰部分には粒径約 2～6 mm の黒色や灰色の小礫が混じる。漆喰片全体の厚さは均一ではなく、側面部では白漆喰部分の厚さは約 30～90 mm、赤漆喰の部分の厚さは約 4～8 mm である。上端部は平滑に仕上げられている。小礫を混ぜた赤漆喰で上塗りして仕上げていることから、赤漆喰部分のみが露出していたと考えられる。



写真 1 手水跡の検出状況（南東から）

『御城御庭絵図』では二重線で囲まれた範囲がたたきと考えられる（図 2）。漆喰片の上端部の平滑仕上げは二重線で表現されている部分に相当すると思われることから、絵図の表現とも合致する。ただし、赤い着色はされていない。絵図では東側に小石が配置されているようにみえるが、遺構の状況や漆喰片の割れ口から推定

することは難しい。また、手水鉢が台石の上に据えられているように描かれるが、台石が存在したかどうかについては、兵舎基礎によって該当部分が破壊されていたため遺構からは判断できなかった。

遺構と漆喰片の検討から、手水跡は鉢状で内面底部中央に排水用の穴が設けられ、上端部は平滑であったと考えられる。さらに、内面と上端部および外面の上部半分ほどが小礫を混ぜた赤漆喰で上塗りして仕上げていることから、赤漆喰部分のみが露出していたと推定できる。



写真2 漆喰片出土状況（北東から）

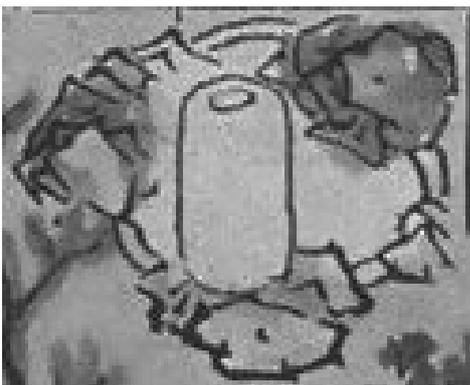


図2 『御城御庭絵図』余芳手水部分拡大

5. まとめ

余芳の発掘調査で出土した漆喰片について、形状や製作技法等に関する所見を遺構の概要とともに述べた。余芳の移築再建事業において二

之丸庭園時代の様子は解体部材、発掘調査結果、古写真、古絵図等の資料から各種検討が行われた。そのうち、余芳の位置は手水跡や礎石の遺構から特定できた。手水跡の形状や製作技法については余芳の手水跡の遺構と漆喰片の検討を総合し、手水跡は鉢状で上端部は平滑、小礫を混ぜた赤漆喰で上塗りして仕上げている部分のみが露出していたと推定した。

二之丸庭園では発掘調査により多春園跡や権現山北西部の園路跡等でもたたきが検出されており、露出展示となっている北池や南蛮練塀もたたきで造られている。しかしながら、一口にたたきと言っても製作方法や色味、硬さ、劣化程度は様々であり、漆喰やモルタルとの判別が難しいものもある。成分分析等の自然科学分析も活用して、たたきや漆喰、近現代のモルタル等について整理を行い、二之丸庭園のたたき構造物の整備検討に活かしていきたい。

手水跡は保護層を設けた遺構直上に復元されることになっている。建物とその周辺の茶庭が一体となり、かつての二之丸庭園の風景が感じられる整備となるよう努めていく。

註

- (1) 名古屋市『名勝名古屋城二之丸庭園発掘調査報告書 第1次（2013）～第3次（2015）』2017
- (2) 漆喰の材料は、石灰・海藻糊・砂（細骨材）・苧である。「壁の上塗りに用い、また石・瓦のすきまをふさぐのに用いる。白色を主とするが、種々の色を加えることもある。」とある（『角川古語大辞典』）。

たたきの材料は、石灰・苦汁・水・砂（細骨材）・土である。「地面に敷いて木槌でたたき固めたもの。また、その作業。砂利のない時は碎石を用いる。三種を混ぜるので「三和土」の字を当てることがある。商家の土間、また数寄屋の軒回り、露地（ろぢ）の飛び石の間、炊事場、便所など、水のかかるところに敷く。略して、叩（たたき）とも。」とある（『角川古語大辞典』）。

漆喰片は手水の一部として作られていることから用途としてはたたきの範疇に入ると考える。遺構と漆喰片は一連のものであるため、名称はどちらかに統一すべきと考えるが、二之丸庭園内の他地点出土のたたきの成分分析結果も含めて、漆喰とたたきの明確な違いを整理しきれていないため、名称は名古屋市『名勝名古屋城二之丸庭園発掘調査報告書 第1次（2013）～第3次（2015）』（2017）の表現を踏襲した。

（3）口絵 15、口絵 16 は（1）の報告書より転載。

参考文献

角川書店『角川古語大辞典』第四巻 1994

彰国社『建築大辞典 第2版<普及版>』2007

土木学会関西支部 編 井上晋 他著『コンクリートなんでも小事典 固まるしくみから、強さの秘密まで』講談社 2008

《Title》

About the plaster of Yohou at Ninomaru Garden

《keyword》

Nagoya Castle Ninomaru Garden, plaster, Tataki, Yohou, Hand washing

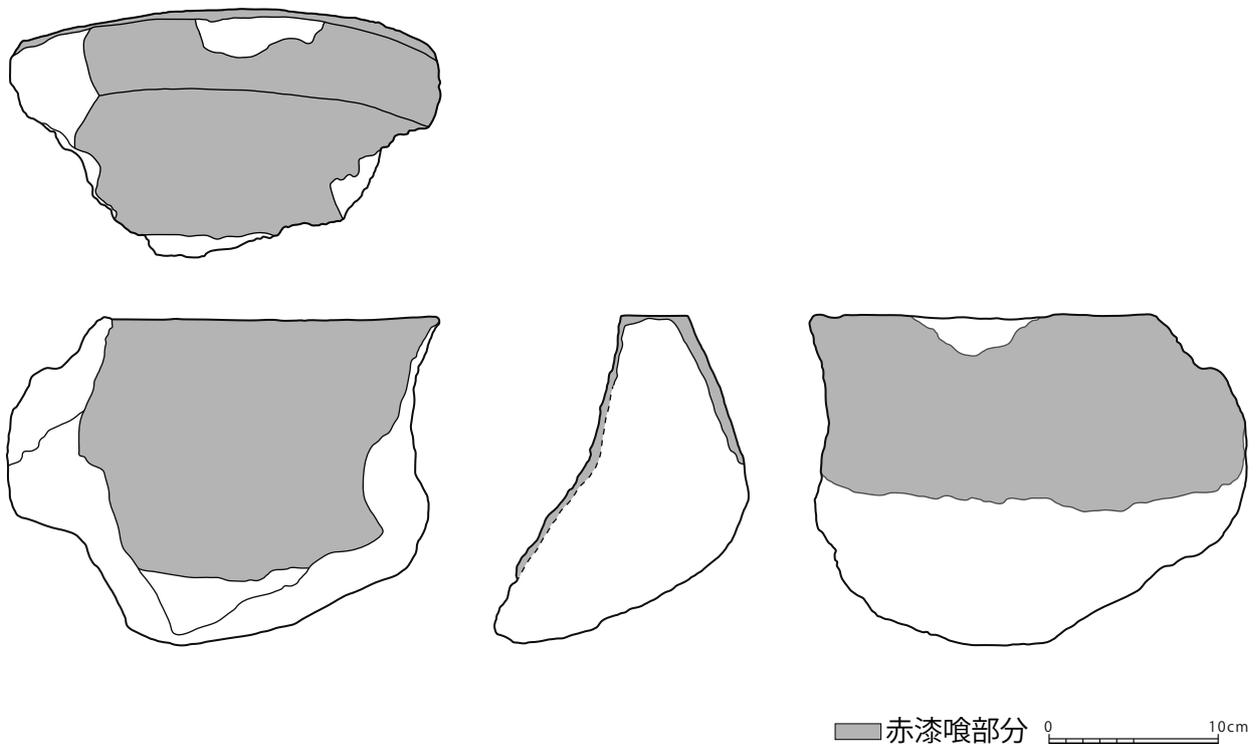


図3 余芳出土の漆喰片